

第 41 回生殖・発生毒性学東京セミナーのお知らせ-第 2 報-

生殖・発生毒性学東京セミナーを下記のとおり開催いたします。
多くの方の参加をお待ちしております。

今回は、下記のように「生殖・発生毒性何でもコーナー」を開催しますので、お気軽に意見・要望などをお知らせ下さい。

記

日時： 2025 年 9 月 27 日 土曜日 13～17 時

会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター センター棟（405 号室）

参加費：2,000 円 懇親会費：5,000 円（センター内を予定）、税区分は不課税です。

参加受付：生殖・発生毒性学東京セミナーHP お知らせページにて受付中です。

当日参加も可能ですが、出来るだけ事前登録（特に懇親会に参加される場合）をお願いいたします。

プログラム：

13：05～ 受け付け

13：20～ 開会のことば

進行係 田崎 委員、片桐委員

13：30～14：30 「ウズラ胚を用いた生殖・発生毒性試験代替法の開発」

川嶋 貴治 先生 国立環境研究所

「体外に卵を産むという鳥類の特性を生かして、ウズラ受精卵（胚）へ直接的に被験物質をばく露する手法（卵内投与試験法）の開発を進めている。最近、我々は化学物質による性分化異常を迅速に検出するためのエンドポイントを検証し、OECD テストガイドライン化を目指している。この試験法は、成鳥を犠牲にすることがないので、動物実験の 3Rs に貢献することができる。本セミナーでは、今後、生殖発生毒性試験における動物実験代替法としての展開について議論したい。」

14：40～15：10 「生殖・発生毒性何でもコーナー」

宇佐見 誠 生殖・発生毒性学東京セミナー事務局

「事前に頂いたこのお知らせへの返信や当日のフロアからの発言などをもとに生殖・発生毒性試験の実施・評価において遭遇する仮題について議論します」

「予定していた演題が流れてしまったための代替コーナーです。お知らせへの返信やフロアからの発言がない全く場合は、当事務局の宇佐見が当セミナーの担当を終了するときのためにとっておいた各種の化学物質や医薬品等の安全性評価委員会で遭遇した、ここでもか言えない話（用語の定義、GLP の範囲などで出くわしたこと）を元にして、生殖・発生毒性試験の実施・評価について理解を深める場にしたいと思います。時間内で終わらなかった分は場合は次回以降に回させていただきます。」

（休憩）

15：30～16：30 「農薬のリスクはどのように評価されるか：医薬品の評価との違い」

青山 博昭 先生 残留農薬研究所

「農薬は、様々な農作物を守るために意図的に環境中へ放出されるため、医師や薬剤師の監督のもとに特定の患者にのみ処方される医薬品とは異なり、極めて低濃度（低用量）とはいえ、年齢や性別を問わず多くの市民がその暴露を受ける。したがって、そのリスクを正しく評価する手法も、当然のことながら医薬品とはやや異なる。今回のセミナーでは、農薬のリスク評価手法とその理念について概説する。」

16：30～ 閉会のことば

17：15～19：15 懇親会（国立オリンピック記念青少年総合センター内で開催予定）

当セミナーでは、参加者の皆さまからのご要望などを随時受け付けています。

生殖・発生毒性に関する質問や演題の提案など、何でも OK です。

セミナー当日でも事前にでも、いつでも事務局宛にご連絡下さい。匿名扱いでも OK です。

質問などへの回答などはセミナー当日の講演時間以外に行います。

ご連絡の程、よろしくお願いいたします。

また、生殖・発生学東京セミナーの実行委員として協力して下さる方も随時募集しています。実務経験が無くても、生殖・発生毒性に興味のある方であれば、歓迎いたします。

ご応募の程、よろしくお願いいたします。

問合せ先：生殖・発生毒性学東京セミナー事務局
Email: tokioseminar@gmail.com
生殖・発生毒性学東京セミナーHP
(検索エンジンでは見つかりません、スマホ可)
<http://rdtoxts.wixsite.com/rdt-ts>
会員専用ページパスワード：TaylorSwift1989

以上